

< 目次 >

- 1 【復興教育】今、目の前の課題の解決を！(2)
- 2 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録
- 3 【編集後記】あつしのひとりごと

★ 教育振興運動イメージソング「Hand In Hand」を聴くことができます。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/HANDINHAND.html>

★ 平成24年度教育振興運動集約県大会開催要項はこちら

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/24syuuyakutaikai.pdf>

1 【復興教育】今、目の前の課題の解決を！(2)

『仮設自治会をうまく運営する10ヶ条』 ～阪神淡路大震災の教訓から～

- 第一ヶ条 声かけ、あいさつをする。(誰とでも)
- 第二ヶ条 よく話し合いをする。(解決できなくても)
- 第三ヶ条 ニュースを出す。(居住者全員に)
- 第四ヶ条 会費を集金する。(行政任せにしないで、自治経費として)
- 第五ヶ条 集会所には、いつも誰かがいる(新聞やマンガを置くなど)
- 第六ヶ条 共有財産をつくる。(花壇・畑など)
- 第七ヶ条 みんなで酒を飲む。(お茶での参加もOK)
- 第八ヶ条 手料理をみんなで食べる。(来ない人にも届けるなどの配慮)
- 第九ヶ条 季節ごとの行事を大切に。(ボランティアを頼らずに)
- 第十ヶ条 サークル活動を活発に行う。(地域の必要課題としての活動)

これは、11月1～2日に八戸市で行われました「平成24年度東北地区社会教育研究大会・第57回東北地区公民館大会」においてシンポジストとして登壇された菅原敏元 宮城県社会教育委員連絡協議会会長が紹介したものです。

阪神淡路大震災直後から、神戸で復興まちづくり支援活動を行っているNPO法人のパンフレットの中にある一節であり、そこには「今、一番大切なことは、被災者が地域ごとに、とことん話し合って自分たちのことは自分で決める姿勢を貫くことだと思います」とも記されています。

このパンフレットのサブテーマは、「仮設を新しい“ふるさと”とよべるように」。被災前の地域に思い入れがある中で、このサブテーマには抵抗がある方も多いいと思います。また、将来の居住地への移住を考え、今住んでいる仮設住宅は「深入りせず、あくまでも仮住まい」との意識もあることでしょう。

しかし、過去のことや未来のことに思いを馳せても、“今、生きている”という時間を最も大切にしたいものです。「昨日より今日、今日より明日」と日常生活を、より暮らしやすいものにするには悪い事ではありません。仮設住宅の生活をより良いものにするために、阪神淡路大震災の教訓を参考にしてい

ましょう。

被災により体育館での避難生活を余儀なくされた中、子どもの学習スペースや居場所スペースを作ってあげた避難所がたくさんありました。今、目の前の子どものことを考えて、少しでも良い教育環境を保障してあげたいと地域の方や保護者の皆さんが取り組みました。この取組こそ、教育振興運動の原点だと思います。

地域の自治も教育振興運動も、目の前の課題の解決にあたるために話し合い、力を合わせて取り組むものであり、その考え方は同じものなのだと思います。

2 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

(振ちゃん) では、第1問です。

(教ちゃん) きゅ、急に何よ！

(振ちゃん) 学校で、非常ベルが鳴りました。どのように行動したらよいですか？ A 走って遊ぶ。 B ひとり、一目散に走って逃げる。
C 先生の指示に従い落ち着いて避難する。チチチチチ……。

(教ちゃん) えっ、えっ。えーと……“C”！

(振ちゃん) ジャジャン！せ〜かいです。続いて、第2問！

(教ちゃん) だから、何よ！

(振ちゃん) 服に火が燃えうつりました。どうしたらよいでしょう？ A 走り回って消す。 B 息を吹きかけて消す。 C 地面に転がって消す。チチチチチ……。

(教ちゃん) ちょ、ちょっと待ってよ。そんなに急がせないで考えさせてよ。

(振ちゃん) 考えている時間はありませんよ。すぐに行動に移さなくちゃ！

(教ちゃん) “B”じゃないと思うけど。地面に転がって火が消えるかしら。でも、火を消すほど足も速くないし……。じゃ、“C”！

(振ちゃん) ジャジャン！せ〜かいです。いよいよ、最終問題です！

(教ちゃん) え〜、まだあるの？

(振ちゃん) 火を使っているときに地震が発生しました。どうしたらよいでしょう？ A 地震が止まるまでそのままにしておく。 B 走って行き、すぐに火を止める。 C 水をかける。チチチチチ……。

(教ちゃん) えーと、えーと……。やっぱり、火事になったら大変だから、“B”！

(振ちゃん) ファイナル・アンサー？ ……………。

(教ちゃん) ファ、ファイナル……。アンサー。

(振ちゃん) 残念！ファファファファファ〜ン。正解は、“A”でした。

(教ちゃん) あ〜あ。ガックリ……。

(振ちゃん) 以前も紹介しました奥州市の「防災キャンプ」が、今年も10月13〜14日に行われました。今年で、4年目だそうです。

(教ちゃん) そうね、前に紹介したことがあったわね。

(振ちゃん) その時に使われた「防災クイズ」からの出題だったんだよ。

(教ちゃん) そうだったの。振ちゃんは、わかったの？

(振ちゃん) 当然！ワイルドだろお〜。

(教ちゃん) はい、はい……。奥州市の取組を参考に、他市町村でも取り組んでみませんか？

★「防災キャンプ2012」開催要項・資料はこちら

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/24bousaiiousyu.pdf>

3【編集後記】あつしのひとりごと

様々な機会で、沿岸地域の子どもたちの活動の様子を見聞きします。その都度、涙を流したり、考えさせられたりしています。「ぱるす通信」という出版物には“被災地からの報告”というコーナーがあり、仮設校舎で学ぶ大槌町立大槌中学校の様子が掲載されていました。

★「ぱるす通信」被災地からの報告はこちら

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/24ooduti.pdf>

大槌中学校の仮設校舎は、大槌町4小学校の合同仮設校舎に隣接し、校庭は小学校と共同で使用しています。その1周150mのトラックをはみ出しそうになって走る中学生は、赤い靴と白い靴を履いています。赤い靴は震災直後に、白い靴は後からいただいた支援物資なのだそうです。

スクールカバンも自転車のヘルメットも形や色は様々ですが、そのことに不平不満を言う生徒はひとりもいません。トラックが小さくても一所懸命走り、支援してもらった形が違うカバンでも明るく元気に登校しています。仮設校舎とわかっていても、せつせと掃除をする子どもたち・・・。

私が中学校に勤務していた時は、校則とは違う靴や靴下、Tシャツにワンポイントがついているかいないかということに目くじらを立て、生徒指導をしてきました。しかし、“教育に本当に必要なものは何か”を大槌中学校の生徒たちが示してくれている・・・と執筆された大槌中学校の鈴木校長先生が投げかけています。この記事を読んで、また子どもたちに教えられました。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

感想・意見・要望はこちら。 ⇒ 21kyoushin@gmail.com

⇒ 第83号は、12月25日（火）配信です。

★バックナンバー（第1～81号）はこちら。

⇒ http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/merumaga_backnumber.html

★全県共通課題（家庭学習と読書推進）の実践事例はこちら。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/zenkenjirei.html>

★メルマガで紹介しました資料はこちら。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/shoukaijirei.html>

～～～配信元～～～

*岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

*発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。ロコミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気あなたから作りだしてください。

～～～